

丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップ

渋野町

2025年3月



丈六町・渋野町 地震、大雨・洪水避難支援マップ

2025年3月

記号の意味

- 大雨時に冠水しやすい道路
縁石や段差等に注意が必要な道路区間
- 大雨時に注意が必要な箇所
防護柵がなく水路に転落しやすい道路区間
- 地震時に注意が必要な道路
倒壊しやすいブロック塀、石垣、擁壁や、屋根瓦等の落下が起こりやすい道路区間
- 地震時に注意が必要なもの
崩壊防止工(擁壁、法枠)がない崖、倒壊しやすい鳥居、石灯籠、石碑等
- 避難所〔災害対応〕
- 鍵保管庫
- 集会所
(避難所ではありません)
- 防災倉庫
- ランドマーク
(地域の目印)
- 地盤高さ
海拔(m)

かぎ保管庫 (丈六コミュニティセンター)

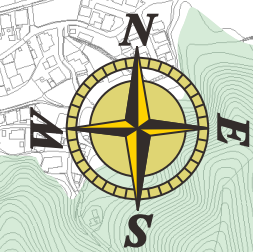


片山集会所

丈六コミュニティセンター

渋野小学校体育館

かぎ保管庫 (渋野小学校)



徳島県水防情報HP
>河川水位情報
>東部(徳島)
>多々羅川・丈六円橋



丈六町北部
土砂災害
ハザードマップ



丈六町南部
土砂災害
ハザードマップ

製作：丈六コミュニティ協議会、丈六町運営協議会、渋野町内会、丈六・渋野地区自主防災連合組織、徳島大学環境防災研究センター、徳島大学理工学部河川・水文研究室、徳島市
問合せ先：丈六コミュニティセンター(088-645-2182)

「この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 令7徳島市指令都建第16号)」

丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップの使い方

～発災時に慌てず、安全で迅速な避難をするために～

2025年3月

地震,大雨・洪水避難支援マップの使い方

■南海トラフ地震の準備

想定されている南海トラフ地震において、丈六町・渋野町の揺れの強さは**最大震度 7**です。地盤の沈下・液状化が発生し、建物やブロック塀等の損傷・倒壊、道路の通行障害の発生が予想されます。地域は津波浸水の想定範囲外ですが、「**徳島市 地震・津波防災マップ**」に地震の強度、津波浸水域・浸水深の詳細が説明されています。お読みください。

この「**丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップ**」には、災害時の避難所と避難経路に関する情報（注意を要するブロック塀等）を掲載しています。夜間や早朝、雨天に地震が発生してもあわてずに避難できるよう、常日頃から避難先と複数の避難経路を考えたり実際に歩いたりして、避難路の安全性や避難に必要な時間を確かめておきましょう。

■大雨・洪水災害の準備

丈六町・渋野町では何度も大雨・洪水災害を経験してきました。地球温暖化の進行によって、今まで経験したことのない水災害が発生する可能性があります。将来発生するかもしれない大雨・洪水災害の規模（雨量、浸水範囲・浸水深）は「**徳島市 洪水・高潮ハザードマップ**」で説明されています。

この「**丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップ**」には、災害時の避難所、冠水しやすい道路、水路に転落しやすい道路等を掲載しています。避難路として考えている道路にどのような危険が隠れているのかを確認して、早期避難できるよう準備しておきましょう。

【関連資料】徳島市 地震・津波防災マップ



南海トラフ巨大地震で想定される**震度分布、津波浸水域、浸水深**、防災対策、避難時持出し品等が詳しく書かれた冊子です。徳島市役所7階、危機管理局防災対策課、もしくは市役所ホームページで入手できます。



【関連資料】徳島市 洪水・高潮防災マップ



想定最大規模での洪水浸水**想定区域、浸水深、警戒レベルと避難行動**等が詳しく書かれた冊子です。徳島市役所7階、危機管理局防災対策課、もしくは市役所ホームページで入手できます。



【地震】倒壊しやすいブロック塀・擁壁等

地震時に倒壊しやすく、避難路を閉塞したり、避難者を危険にさらす可能性のあるブロック塀には、高いブロック塀（6段、120cm以上）や老朽化したブロック塀のほかに写真に示すようなものがあります。多くは鉄筋量が不足している可能性があるものです。

神社の鳥居や玉垣、石灯篭も倒壊の危険性は高いですし、一見頑丈そうに見える石積みの塀も鉄筋が入っていないために大地震では倒壊する可能性があります。他にも古い擁壁や道路側に傾斜した屋根の瓦にも注意が必要です。本マップには、避難時に注意を要するものがある道路区間に赤破線を施しています。本マップを片手に避難路を歩いて確認してみてください。



老朽化したブロック塀



擁壁上のブロック塀



飾りブロックが多usedされたブロック塀



石積み塀・石垣塀



鳥居



玉垣



亀裂の入った擁壁・石垣



古い土葺きの屋根・道路側に傾斜した屋根

【大雨・洪水】基本は早期避難、やむを得ない時の冠水時の避難方法

大雨・洪水が予想される場合は、**早め(明るいうち)の避難が重要**です。夜間や急激な降雨では危険箇所が見えなくなるので動かない方が安全です。やむを得ず**冠水した道路を使って避難する際は以下の点に注意**しましょう。

- ① **単独避難は避けます**。手を繋いで歩くことは行動の自由を奪うので、お互いの体をロープで繋いで避難します。お年寄りや体の不自由な人などは背負い、幼児は浮袋、乳児はベビー用バスを利用するなど安全を確保します。
- ② **運動靴**を履いて避難します。長靴では中に水が入った場合に動けなくなります。もちろん裸足は厳禁です。
- ③ **探り棒**を持って進行方向の安全を確かめながら道路の中央を歩きます。水面下にはどんな危険が潜んでいるか分かりません。止まっている水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm程度ですが、流れがある場合はもっと浅くなります。**避難所までの移動に危険が伴うと思われる場合**には、近くの**高台や建物の2階以上への垂直避難**も考えましょう。

【大雨・洪水】冠水道路には転落の危険性



地点A 平常時



地点B 平常時



地点A 冠水時



地点B 冠水時

平成23(2011)年台風15号では、徳島市で観測史上3位となる日雨量430mmを観測しました(最大時間雨量は64mm)。左の2組の写真は、その大雨の前後で撮影された徳島市内の住宅地の様子です。**上は平常時、下は冠水時の写真**です。

地点Aでは転落防止柵がなければ、道路と排水路の境界が不明で転落の危険性がありますし、地点Bでは段差が分からず、転倒等の危険性があることが分かります。

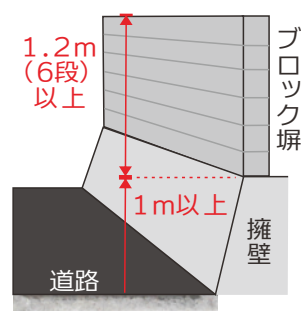
氾濫した**濁っている水**は、水深が浅くても**道路の傾き・段差や障害物、マンホール等を全て隠してしまいます**。特に夜間では道路の様子が全く分からなくなり危険です。

製作：丈六コミュニティ協議会、丈六町運営協議会、渋野町内会、丈六・渋野地区自主防災連合組織、徳島大学環境防災研究センター、徳島大学理工学部河川・水文研究室、徳島市
問合せ先：丈六コミュニティセンター（電話：088-645-2182）

【地震】丈六町・渋野町のブロック塀事情

丈六町・渋野町は大雨・洪水による浸水被害を受けやすい土地柄です。そのため、盛土して周囲の道路より地盤を高くした家屋敷が多数あります。

擁壁上のブロック塀はとても揺れやすくなっています。特に右図のような高さ1m以上の擁壁の上に作られた、高さ1.2m以上のブロック塀は、倒壊の危険性が高いとされています。地震災害時には、擁壁上のブロック塀に気を付けて避難することが重要です。



擁壁上のブロック塀

【地震】かぎ保管庫



かぎ保管庫の外観です。建物入口の鍵等が保管されていて、保管庫が**震度5強以上**の揺れを感知すると保管庫の**扉のロックが自動解除**されます。ハンドルを半時計方向に**90度**回すと扉が開きます。



かぎ保管庫に収められているものです。建物入口の鍵、パール、説明書です。発災後、**一番最初に来た人**がこれらを**取り出して**、説明書にしたがって建物入口の解錠等を行ってください。

【大雨・洪水】車を使った避難の危険性



平成23年台風15号時の徳島市内の様子

車で浸水箇所を通過するのは非常に危険です。側溝等に落輪すると動けなくなります。また、浸水深が30cmを超えるとマフラーから水が逆流してエンジンに水が入ります。70cmを超えると水圧のためにドアが開けにくくなり、車から脱出できなくなる可能性もあります。

徳島市 公式LINE



「友だち登録」して、受信設定から「防災」を選択すると災害時に情報が届きます。また『防災メニュー』から各種ハザードマップや避難所、雨量・河川水位等の情報にアクセスすることができます。

丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップの使い方

～発災時に慌てず、安全で迅速な避難をするために～

2025年3月

地震,大雨・洪水避難支援マップの使い方

■南海トラフ地震の準備

想定されている南海トラフ地震において、丈六町・渋野町の揺れの強さは**最大震度7**です。地盤の沈下・液状化が発生し、建物やブロック塀等の損傷・倒壊、道路の通行障害の発生が予想されます。地域は津波浸水の想定範囲外ですが、**「徳島市 地震・津波防災マップ」**に地震の強度、津波浸水域・浸水深の詳細が説明されています。お読みください。

この**「丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップ」**には、災害時の避難所と避難経路に関する情報（注意を要するブロック塀等）を掲載しています。夜間や早朝、雨天に地震が発生してもあわてずに避難できるよう、常日頃から避難先と複数の避難経路を考えたり実際に歩いたりして、避難路の安全性や避難に必要な時間を確かめておきましょう。

■大雨・洪水災害の準備

丈六町・渋野町では何度も大雨・洪水災害を経験してきました。地球温暖化の進行によって、今まで経験したことのない水災害が発生する可能性があります。将来発生するかもしれない大雨・洪水災害の規模（雨量、浸水範囲・浸水深）は**「徳島市 洪水・高潮ハザードマップ」**で説明されています。

この**「丈六町・渋野町 地震，大雨・洪水避難支援マップ」**には、災害時の避難所、冠水しやすい道路、水路に転落しやすい道路等を掲載しています。避難路として考えている道路にどのような危険が隠れているのかを確認して、早期避難できるよう準備しておきましょう。

〔大雨・洪水〕基本は早期避難、やむを得ない時の冠水時の避難方法

大雨・洪水が予想される場合は、**早め(明るいうち)の避難が重要**です。夜間や急激な降雨では危険箇所が見えなくなるので動かない方が安全です。やむを得ず**冠水した道路を使って避難する際は以下の点に注意**しましょう。

① **単独避難は避けます**。

手を繋いで歩くことは行動の自由を奪うので、お互いの体をロープで繋いで避難します。

お年寄りや体の不自由な人などは背負い、幼児は浮袋、乳児はベビー用バスを利用するなど安全を確保します。

② **運動靴を履いて避難**します。

長靴では中に水が入った場合に動けなくなります。もちろん裸足は厳禁です。

③ **探り棒**を持って進行方向の安全を確かめながら道路の中央を歩きます。

水面下にはどんな危険が潜んでいるの分かりません。

止まっている水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm程度ですが、流れがある場合はもっと浅くなります。

避難所までの移動に危険が伴うと思われる場合には、近くの**高台や建物の2階以上への垂直避難**も考えましょう。

〔大雨・洪水〕冠水道路には転落の危険性



地点A 平常時



地点B 平常時



地点A 冠水時



地点B 冠水時

平成23(2011)年台風15号では、徳島市で観測史上3位となる日雨量430mmを観測しました(最大時間雨量は64mm)。左の2組の写真は、その大雨の前後で撮影された徳島市内の住宅地の様子です。**上は平常時、下は冠水時の写真**です。

地点Aでは転落防止柵がなければ、道路と排水路の境界が不明で転落の危険性がありますし、地点Bでは段差が分からず、転倒等の危険性があることが分かります。

氾濫した**濁っている水**は、水深が浅くても**道路の傾き・段差や障害物、マンホール等を全て隠してしま**います。特に夜間では道路の様子が全く分からなくなり危険です。

〔関連資料〕徳島市 地震・津波防災マップ



南海トラフ巨大地震で想定される**震度分布、津波浸水域、浸水深**、防災対策、避難時持出し品等が詳しく書かれた冊子です。徳島市役所7階、危機管理局防災対策課、もしくは市役所ホームページで入手できます。



〔関連資料〕徳島市 洪水・高潮防災マップ



想定最大規模での洪水浸水**想定区域、浸水深、警戒レベルと避難行動**等が詳しく書かれた冊子です。徳島市役所7階、危機管理局防災対策課、もしくは市役所ホームページで入手できます。



〔地震〕かぎ保管庫



かぎ保管庫の外観です。建物入口の鍵等が保管されていて、保管庫が**震度5強以上**の揺れを感知すると保管庫の**扉のロックが自動解除**されます。ハンドルを半時計方向に**90度回**すと扉が開きます。



かぎ保管庫に収められているものです。建物入口の鍵、バール、説明書です。発災後、**一番最初に来た人**がこれらを取り出して、説明書にしたがって建物入口の解錠等を行なってください。

〔大雨・洪水〕車を使った避難の危険性



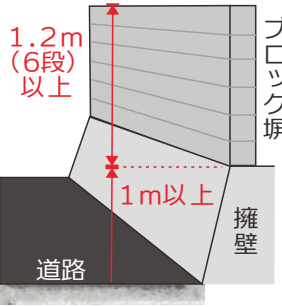
平成23年台風15号時の徳島市内の様子

車で浸水箇所を通過するのは非常に危険です。側溝等に落輪すると動けなくなります。また、浸水深が30cmを超えるとマフラーから水が逆流してエンジンに水が入ります。70cmを超えると水圧のためにドアが開けにくくなり、車から脱出できなくなる可能性もあります。

〔地震〕丈六町・渋野町のブロック塀事情

丈六町・渋野町は大雨・洪水による浸水被害を受けやすい土地柄です。そのため、盛土して周囲の道路より地盤を高くした家屋敷が多数あります。

擁壁上のブロック塀はとても揺れやすくなっています。特に右図のような高さ1m以上の擁壁の上に作られた、高さ1.2m以上のブロック塀は、倒壊の危険性が高いとされています。地震災害時には、擁壁上のブロック塀に気を付けて避難することが重要です。



1.2m(6段)以上
1m以上
ブロック塀
擁壁
道路

擁壁上のブロック塀

〔地震〕倒壊しやすいブロック塀・擁壁等

地震時に倒壊しやすく、避難路を閉塞したり、避難者を危険にさらす可能性のあるブロック塀には、高いブロック塀（6段、120cm以上）や老朽化したブロック塀のほかに写真に示すようなものがあります。多くは鉄筋量が不足している可能性があるものです。

神社の鳥居や玉垣、石灯籠も倒壊の危険性は高いですし、一見頑丈そうに見える石積みのお壁も鉄筋が入っていないために大地震では倒壊する可能性があります。他にも古い擁壁や道路側に傾斜した屋根の瓦にも注意が必要です。本マップには、避難時に注意を要するものがある道路区間に赤破線を施しています。本マップを片手に避難路を歩いて確認してみてください。



老朽化したブロック塀



擁壁上のブロック塀



飾りブロックが多用されたブロック塀



石積みお壁・石垣お壁



鳥居



玉垣



亀裂の入った擁壁・石垣



古い土葺きの屋根・道路側に傾斜した屋根

徳島市 公式LINE



「友だち登録」して受信設定から「防災」を選択すると、災害時に情報が届きます。また『防災メニュー』からは各種ハザードマップや避難所、雨量・河川水位等、この『大雨・洪水、地震災害避難支援マップ』に掲載している情報にアクセスすることができます。

製作 丈六コミュニティ協議会、
丈六町運営協議会、
渋野町内会、
丈六・渋野地区自主防災連合組織、
徳島大学環境防災研究センター、
徳島大学理工学部河川・水文研究室、
徳島市

問合せ先：丈六コミュニティセンター
電話：088-645-2182